

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201876		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ村松		
所在地	静岡県静岡市清水区村松原1-7-16		
自己評価作成日	令和1年10月15日	評価結果市町村受理日	令和2年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokansaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JieyosyoCd=2274201876-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和1年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“その人らしく、安心した暮らし、なじみの暮らし”を理念に、利用者一人一人の個性を大切に、信頼関係を築きながら尊厳と自信のある暮らしが継続できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

8月着任の新管理者は法人内の他事業所で准施設長を務めていたものの、当事業所のことは一つひとつ掴む毎日で、空室も4床ということもあって、本年の目標を「起死回生」と決め、満床も含み新たな職場環境をつくるために取組んでいます。また「ジョイ村松モットー」として「自分に厳しく人に優しく」と掲示、入職時やスタッフ会議、新規利用者受入れ時等、事ある毎に必ず伝えています。管理者交代については電話で「お会いしたい」旨を伝え、家族面談をおこなって信頼関係の構築に努め、また利用者には想いや意向を改めて確認してゆき、回転寿司やチェーンのうなぎ店など月に2回は外出できるようにと企画できるまでに成っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誹謗中傷陰口の徹底追及と禁止、又自分に厳しく人に優しいをモットーに更に職場環境は改善されている。	法人理念の掲示はありますが、別途組織人としての気構えとして「ジョイ村松モットー」と銘打って「自分に厳しく人に優しく」を事あるごとと職員に伝え、浸透させています。	「モットーが実践できているか」、振り返りの機会があればなお良いと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のお祭り等に参加し、交流を深めている。何とか予定を組み日時と人数を分けながら月1度の外出・外食・行事参加を心掛けている。	近隣では事業所からの騒音(声)に苦情も出ている状況にありましたが管理者交代に伴い、統括施設長が菓子折りを持って周囲7軒に廻り、理解を得て併設のデイサービスの利用に至る等功奏しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けての情報発信は現状行っていない。ご家族様に対して、ご理解を深めて頂けるようウエルシア店舗にチラシを配布、説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前施設長は規則正しく行っていました。引継ぎ以降実行出来ていない。	前任者との引継ぎが十分できておらず、現在運営推進会議は開催できていません。今まで出席して下さっていた自治会長からは「いつやりますか」と再スタートを待つ声も聞かれ、12月には開催する予定となっています。	運営推進会議の定期開催により、行政、地域との連携が進むことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自治会長、包括への挨拶連携は取れており、既に利用者紹介等している。	本年8月の実地指導では、指摘事項はありませんでした。また集団指導には歴代の管理者が出席、「静岡県徘徊認知症高齢者捜索模擬訓練事業」にも協力し、毎月開かれている実行委員会に欠かさず参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状、身体拘束は行っていない。職員にも理解してもらう為に、何かあれば、その都度説明をし取り組んでいる。スタッフ会議、管理者会議にて話し合いも設けている。	指針、マニュアルを整備したうえで「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」を設置しています。また委員会開催は5月、8月、11月、2月と定め、漏れなく運営できるようにしています。現在3要件に係る案件はありません。	委員会では「事例検討等内容の充実」、研修においては「記録確認」等、更なる整備とファイルの一元化を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で防止に努めるようにしている。特に会議で力を入れている議題であります。5月スタッフ会議にて一部スタッフへの個人面談も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が学ぶ機会は十分とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明している。 利用者・家族から質問、不安等あれば、時間を作り対応している。 非常に濃い連携が出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望があれば、スタッフ会議で話し合い、運営に反映させている。 具体的な議論にて業務に活かしている。	管理者交代にあたっては家族と面談を持ち、信頼関係構築に努めています。また8月より毎月のお便りは担当職員のコメントを添え、1ヶ月の様子と「家族からの意見、ご要望」欄を設け、報連相につなげています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で意見・提案があった時は、職員が納得するまで十分話し合い、反映させている。 また、日頃職員が意見を言いやすい環境作りに努めている。	毎月のスタッフ会議には統括施設長も出席して、意見の集約を図っています。また年度初めに個人面談をおこない、やりがいを持って働ける環境作りとして職員給与を見直してもいて、意欲の高まりがみられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある働きやすい環境作りに努めている。 まだまだ改善内容は多くある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修によるランクアップ試験を行っている。 個々とのコミュニケーションとメンタル技量を把握し、それに適した環境作りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設への挨拶連携を築いているがまだまだこれからです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行っている。入居直後は、コミュニケーションを密に取り、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望があった場合は、面談・見学を行い、状況確認に努めるようにしている。また、不安等が強いようであれば、体験入居なども進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向・ADLを考慮し、必要に応じて福祉用具・リハビリ等の利用ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様ができることは、行って頂いている。 食器洗い、洗濯物のたたみ等積極的に協力していただき、一緒に暮らす仲間としての関係を構築できている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・職員が利用者を支えるパートナーとしての関係を築けている。ご家族様の協力が難しい場合でも、小さなことから協力して頂けるよう、連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等ご面会に来やすい雰囲気作りに努めています。 職場スタッフ環境を1から作り直している。	家族が墓参や外食へと連れ出してくれ、中には病院受診時での息子との外食を愉しむ人もいます。また洋服のショッピングを楽しみにしている人は職員と一緒に出かける日を心待ちにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がコミュニケーションがとりやすいよう、職員が間に入るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後必ず数回その後の様子を移転先に伺っている。 また、その際同業者とのコミュニケーションを深めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族からの情報収集を行い、極力本人の意向に添えるよう努めている。 誠心誠意対応している。	自分の言葉で伝えられる人が多く、食事中も「～の方がいいね」「～食べに行きたいね」との会話はよく聞かれますが、関わりは得意な人に偏っていく傾向があることを管理者は危惧しており、今後の課題としています。	認知症の理解やコミュニケーション技術のスキルアップを図り、職員の知識や技術の標準化につながることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人・家族からの情報収集を行っている。 必ず面談している。 前施設との情報も活かしている。 (既往歴等)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の状況の把握は、常に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、課題を検討し、介護計画を作成している。	毎月のスタッフ会議後のカンファレンスを通じて職員意見が集積されるとともに、週に一度勤務する介護支援専門員も現場に入り、食事や排泄、入浴介助等おこなって利用者の様子を把握することとしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族様と話をしながら、できる限りの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の支援は、行っている。 必要に応じ、診療や医療の提供を行なう。訪問診療と密度の濃い連携を取っている。一部希望により家族にお任せしている。	在宅の頃からのかかりつけ医を4名が継続し、月2回の訪問診療をおこなう協力医への変更は1名のみです。かかりつけ医は家族が其々受診支援し、どちらも「スタッフノート」「利用者ノート」に記録を残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関に情報を伝え相談し、適切な受診・医療が受けれるようしている。 また、認知症高齢者に関する処遇方法についての相談や利用者の退去に関する相談もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との面談を行い、利用者の状況把握に努めている。また、ADLの低下をなるべく抑えられるよう、早期退院を目標に連携を常にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明している。また、ADLの変化や医療が必要になった場合は、その都度、本人・家族と相談し方向性を示している。	看取りに取組む事業所であることを家族に説明しており、今5月にも102歳での大往生の旅立ちがありました。事業所オープンからの利用者で、家族も終の棲家と決め、本人も最期まで苦しむことなくお見送りできました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練が実施していない。施設長による24時間オンコール対応で対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	前任者より密度の濃い地域連携を取れている。	本年は12月に併設事業所との合同訓練を、残り一回は夜間想定を予定しており、現状は未実施です。近隣の川が氾濫した事もあるため、今後は運営推進会議を通じて対策を検討していきたいとしています。	年2回の確実な訓練実施と地域の実情に合った訓練内容の模索を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの時には敬語を使い、利用者を尊重した対応をしている。 常に家族が隣にいるつもりで目上の方に対する礼儀礼節を徹底している。	「副菜が大きく食べにくいのでは？」と思われるも、93歳になっても「刻んでほしくない、お粥にしたくない」との本人の気持ちを重視して様子を見ながら支援しているケースもあり、本人本位を旨としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意見を伝えやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者のペースに添えるように努力している。 ルールで縛りすぎない環境作り。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の身だしなみには気を付けている。 本人の意向を尊重。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の商店やスーパーに職員と一緒に出かけ、利用者の好みの物を提供し、食事を楽めるように取り組んでいる。	昼食はお弁当、朝夕手作りとしています。「肉と魚をバランスよく」「野菜は毎日摂取」「必ず3品提供」と決め、一日おきに利用者と食材購入に出かけていますが、外食も楽しみとしている利用者もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、料理全体の量を個人に合わせている。また、水分量には気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者が出来るところまで行って頂き、出来ないところを職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレの声掛けを行っている。	5名中3名が自立しています。他2名もトイレ介助と言っても見守り程度で、衣類の上げ下げもできています(平均介護度1.5)。夜間は安眠優先として、コール対応でトイレ誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理や日々の水分補給などで工夫している。医療連携により処方とアドバイスによる対応。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間は決まっているが、楽しんで入浴してもらえるよう努めている。安全環境を提供している。	週3回を清潔の目安としています。水、土曜日を除いて湯を張り、利用者には「今日入れるけれどどうしますか?」と尋ね、好きな日にゆったり湯に浸かれるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や習慣に合わせて、横になる時間を設けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が共有できるファイルがある。受診後は、内容を周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべく利用者一人一人の楽しみごとを把握し、気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と何を食べたいか相談し、毎月外出に出かけ、気分転換を図っている。公園などで季節の花を楽しんだり、祭りなどのイベントに参加するなど、日常的にも外出の機会を多く持つようになっている。	事業所周辺の散歩が実施できない時は併設のデイサービスに参加して気分転換を図っています。年間計画はなく、外食中心の外出支援が月に2回おこなわれています。デイサービスの車輛を借りて、日曜日に出かけることが増えています。	外出支援は「季節を感じる」「街の変化を知る」といった視点を持って年間計画を立案、実行できるとなおよいと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、施設で行っている。 金庫（鍵付き）を開錠施錠するのは施設長とリーダーのみ。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が得られるように、飾り付けなどを行い、心地よい空間作りに努めている。 居間に隣接して広いテラスが設けられ、バーベキューなどを行うこともできる。	不要ロッカーや棚、物品を処分したとのことで、5Sが徹底され、スッキリしたフロアへと変更しています。遅番が清掃を担当、滑りやすく転倒の危険がある水モップの掃除は時間帯を変更し、日中はフロアワイパーでの清掃のみとしています。	キッチン上の棚に収納された物品は、移動させるか、落下防止対策が施されることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に隣接して広いテラスが設けられ、利用者が自由に出られるようになっている。自分で洗濯物を干したり、設置されたイスで日向ぼっこなど行うこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に近い環境で過ごして頂けるよう、使い慣れた物を施設でも使って頂くなどして、配慮している。	お洒落が楽しみとの利用者の部屋には、ハンガーラックにお気に入りの衣類が沢山かかり、他にも嫁入り道具の桐の筆筒や、成人式の孫の雄姿、亡くなった伴侶の写真を飾る居室があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように、利用者のADLに合わせ施設内を工夫するように努めている。		